

早期米穂肥・本田防除管理情報

～穂肥管理・本田防除を徹底し高品質・高収量を目指す～

1. 生育概況

本年の早期米は、田植時期から田植後の気温が平年より高く、日照時間も多い為、活着も良好で、現在は茎数も確保できており順調に生育が進んでいる。

本年は5月28日に梅雨入り（平年比8日早、昨年比23日早）となっており、梅雨入り後、気温が低く曇雨天が続く場合は、いもち病の最適条件となるため、十分注意する必要がある！！

2. 穂肥（必ず2回に分けて施用！）

穂肥は、穂を形成する上で最も重要な施肥管理となり、施肥量や時期を的確に判断して施肥することで収量が決まってくる。施肥時期や量を間違えると、穂長・屑米・草丈（倒伏性）・葉の長さ・稔実・病害虫等に影響するので下記の通り施肥しましょう。

- (1) 穂肥1回目の時期は、幼穂2mm～3mmを目安とする。必ず確認！！
- (2) 10a 当り 1回目20kg（6月18日～7月1日頃）追肥一発も同時期
2回目10～15kg（1回目の7日後が2回目の施肥時）
(注1) 生育具合で施肥量の加減をする。過繁茂は、倒伏・病害虫に注意。
(注2) 葉色が濃い場合は、2回目の時期に色直しを行う。（葉色4.0を基準）
(注3) 基肥一発肥料の場合でも生育ムラがあれば、2回目の時期に施肥する。
- (3) 穂肥散布時の水は肥料が溶ける（手たたき水）程度あれば良い。その間は根張りを良くするため間断灌水を行う。

3. 病害虫防除

- (1) いもち病・・・曇雨天が続くと、いもち病発生の最適な環境条件となるので、ほ場の観察をしっかりと行いましょう！
一般米コシヒカリは、オオバラの時期にコルター2号F粉剤を散布する。
- (2) カメムシ・・・毎年、被害が発生しているカメムシについては、必ず防除を徹底。
畦草やほ場内の雑草は出穂前に草刈・抜き取りを実施しましょう。また、出穂後14日頃（穂がくるぶく頃）を目安にキラップ等で防除を徹底しましょう！！

農薬散布は基準を守り、周辺作物への飛散に注意する！！

農作業事故には十分注意して作業を行うこと！！

※栽培履歴の適正記帳、収穫前の提出を必ず行いましょう！